

東京都北区議会議長殿

デフリンピック東京招致を求める意見書提出に関する陳情書

(要旨)

デフリンピック日本招致にあたり、東京都が開催地として承認されるよう、東京都に対し積極的な行動を求める意見書の提出をお願い申し上げます。

(理由)

日頃の障害者福祉へのご理解とご支援に対しましては深く感謝申し上げます。

さて、昨年5月の東京都聴覚障害者連盟評議員会において、ろう者のオリンピック「デフリンピック」2025年東京招致に対し特別決議を採決し、全国ろうあ者大会での特別決議提案や都福祉懇談会での要請、都議会ヒアリングでの要請など、都知事への要請や都議会各党との交渉に取り組んで参りました。

全日本ろうあ連盟でもデフリンピック招致チームを立ち上げ、東京のメンバーと共に都との交渉に同行するなど、東京開催に向けて積極的に招致活動を進めております。

1991年に東京で開催された「第11回世界ろう者会議」は、「聴覚障害者独自の拍手普及」や「ろう者のアイデンティティ確立」など、認識の変化をもたらすという結果を残しました。よってデフリンピック東京開催は、聴覚障害者に対する理解や手話への必要性、またそれらを通してボディランゲージなどの非音声コミュニケーションへの理解や順応が広がり、国際的な対応力に与える影響はきっと大きいものとなるでしょう。

2025年というのは、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてからちょうど100年目にあたります。その記念すべき年に東京で開催することは国内外に成熟した開催都市をアピールするまたとない機会となります。

また2020年東京オリパラのレガシーの活用により、情報アクセシビリティの整備やダイバーシティ東京の共生社会構築が進むことが期待でき、当地域の聴覚障害者の社会参加や障害者福祉の向上にも結びつくということが確信できます。

また、2019年度東京都予算に「聴覚障害者などの障害者スポーツ大会支援調査」300万円が組み込まれており、追い風として活用していきたいと思えます。

デフリンピックを東京で開催することにより、ろう者がろう者としての自覚と誇りを持ち、そして障害のある人も障害のない人も、多種多様な人々と自由にコミュニケーションができるように「心のバリアフリー浸透」と「全ての人に開かれた言語・コミュニケーション環境づくり」を確実なるものにしたいと思う所存です。

提出 平成31年2月19日

北区赤羽西1-18-2 當方

北区聴覚障害者協会

会長 當 芳枝





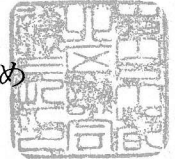
平成31年3月29日

北区聴覚障害者協会

会長 當 芳 枝 様

東京都北区議会議長

榎 本 はじめ



陳情結果について（通知）

あなたから提出されました陳情につきましては、平成31年3月22日開会の本会議において下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

1 受理番号 陳情31第6号
デフリンピックの東京招致を求める意見書提出に関する件

2 審査結果 採択
